

「ふらっとホーム」とは？

市民の皆さんの声を直接お聞きするため、市長が各区に出向き、区民と意見交換をする場です。

本年度、厚別区では約2時間にわたり、「子ども」や「除雪」など、さまざまなテーマで意見交換がされました。

今月号では、その対話内容の一部をご紹介します。

「ふらっとホーム 2012 in 厚別」の開催概要

実施日：平成24年9月30日（日）

会場：羊ヶ丘病院 通所リハビリテーション「スマイル」

参加人数：対話者7人、傍聴者30人

※無作為抽出した市民に案内文を送付し、参加希望のあった方の中から対話者を決定しました。

※全市版6～7ページでも「ふらっとホーム」について掲載しています。

高齢者の健康増

私の毎日の日課は、朝4時に起ウオーキング、筋力トレーニングわたって続けているものもあり国や自治体の財政も一層苦しく社会を迎えるにあたり、高齢者本人の自立や自助の努力も必要



子どもを取り巻く環境が心配



こしか
小鹿さん（50代）

孫の周辺でいじめがあったので学校へ相談しましたが、その後先生が学校に来なくなったことがありました。テレビで教育委員会の会見などをよく見ますが、言い訳する大人の姿を見せるばかりではなく、道徳的な授業を増やしたり、カウンセラーを置いたりすることも必要だと思います。

市長から

先生が説明なく突然いなくなるのは、保護者に不信感を与えるので良くないですね。今のいじめは陰湿で、行き場のない苦しみを持つ子どもたちがいることを非常に問題視しています。教育委員会でも、いじめや自殺の再発防止に向けて議論しています。また、いじめの被害者を守るため、子どもにもある“休む権利”について教えていくことも大切だと思っています。



うえだ ふみお
上田文雄 札幌市長



「ふらっとホーム」をきっかけに実現しました。

2010年の厚別区のふらっとホームで、「病院のように人が集まる場所に情報発信できるものを置いてはどうか」という発言があったことをきっかけに、市内117カ所の病院・診療所でも広報さつぼろの閲覧ができるようになりました。

この他にもふらっとホームの発言をきっかけに実現した施策や改善された事案があり、ふらっとホームは市民の皆さんの意見を直接お聞きできる大切な場所の一つになっています。

学校の空

学校の空き教室と聞きましたが、ニケーションがよにもつながるのさらに、授業時間問題にもいい影響



えんどう
遠藤さん（70代）

市長から

学校開放は子どもたちが下校した後に利用システムですが、子どもたちと大人と一緒に学校にいと、一番いいコミュニティーできると思います。学校は皆さんのすぐある施設ですので、その利点を最大限にますます活用を進めていきたいと思いま